カレーで華麗なまちおこし

spicy↗（奈良県立大学）　飯野颯太　礒田ひより　石川晴菜　植田晃生　神園悦乃
川原鈴音　髙田海南　中村陽紀　平林里那　広瀬陽希

【きたまちの課題と考えた点】

「まち歩き調査」と「ヒアリング調査」から魅力の発信に消極的であることや大学生が多いため人の入れ替わりが激しい土地であることなどから『訪れた人が街の魅力に気づき常連になる流れができていないこと』が課題であると考えた。

【解決方針】

きたまちを訪れた人がリピートするようなまちづくりを考える。
『またきたいまち、きたまちの実現』を目的とする。
目的達成のためにカレー店に着目し、「店の常連」から「まちの常連」を作る。

【カレー店に着目した理由】

①食での街のイメージ作りが観光客に効果的

旅先でその土地で食事を楽しむ人も多く、それを目的に旅先を選ぶという人も多くいる。そのため食のイメージは観光において効果的である。

②きたまちはカレー提供店が多数

きたまちにはカレー店が9店舗、カレー提供店が20店舗以上ある。
人口比でみるとカレー専門店数全国1位の石川県をもしのぐ店舗数を誇る。

③東大寺、正倉院とスパイスの関連が深い

奈良時代に現在スパイスとして用いられているものが薬として初めて日本に持ち込まれた。それらは東大寺の盧舎那仏に奉納され、その後人々のもとへとわたった。残ったものは正倉院に収められた。

シルクロードを通りスパイスが薬として日本に → 東大寺の盧舎那仏にお供えされる → 人々が供えられたものをもらい受ける

【具体的な提案内容】

①スパイスの奉納・授かりイベントの実施

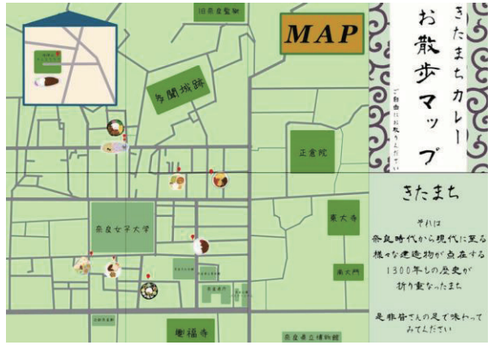
カレーに使用するスパイスをカレー店の店主が奉納イベントの実施。
奉納後、ご利益のこもったスパイスをいただくイベントを実施。
奉納時はシルクロードの国々衣装で行う。
授かり時は奈良時代の人々の服装で授かる。
スパイスの伝来から人々の手に渡るまでの流れを再現。
『きたまちでしかできない、歴史を模したイベント』

転害門前から出発 → 東大寺の大仏にスパイスを奉納 → 2週間の奉納期間 → 東大寺から奉納したスパイスを持ち帰るスパイスイベント

奉納イベント　授かりイベント

②カレーパスポートの発行

購入することで加盟店のミニカレーを最大6店舗食べ放題。
加盟店舗すべてをまわるとカレー認定書を発行。
『きたまちのカレーを知り、好きになる機会を作る』

③カレーまち歩きMAP

スパイスの歴史やカレー店の魅力が伝わる内容を記載。
きたまちの観光名所やおすすめスポットをカレー店を中心に紹介。
『カレーとともにきたまちを知ってもらう』